

事例⑤ 4つの視点『わくわく』 5歳児クラス・7月
期のねらい「友だちとの関わりの中で自分の思いをつたえよう。」

「子どもがつくるお泊り会に向けてー遊びを通して深まる友だちとのかかわりー」

園のくらし、子どもの姿

5歳児クラスに進級し、子どもたち一人ひとりのやりたい遊びが充実するとともに、友だちとの遊びがさらに広がり、深まってきました。保育の中でも、様々な友だちとの関わりを保障するため、グループ活動を取り入れたり、集団で楽しめる遊びを取り入れたりしながら、自分の考えを相手に伝え、友だちの考えを受け止める経験を積み重ねてきています。時にうまくいかない場面や、あきらめそうになる場面もありますが、仲間と励まし合ったり、応援し合ったりする姿も徐々に見られるようになってきました。

1学期の生活の終わりには、子どもたちが心待ちにしている「お泊り保育」があります。子どもたちと保育者だけで寝食を共にする経験は、子どもたちにとってはわくわく、そして、少しのドキドキがあるものです。初めての経験で不安な子どもの思いに丁寧に寄り添いながら、“子どもたちがつくるお泊り会”に向けて、話し合いを重ねてきました。

あそびのはじまり

広々したホールで、自分で作った紙ひこうきを飛ばしてみよう！と保育者が提案。最初は一人一枚の紙を渡し、自分で取り組んでみる。その後、グループで一つの紙ひこうきを折ってみる。すぐに作り始められるグループもあれば、なかなか作れないグループもある。保育者も間に入り、ヒントを与えつつ進めていくと、子どもたちからアイデアや意見が次々と出るように。そして…

あそびの広がり、あそびの深まり

《子どもの様子》

■【自分で】見て！見て！ぼくの・わたしの紙ひこうき



「ここ、
かっこいいね」
「あ、イカの形してる！」

■【みんなで】どんな形の紙ひこうきにする？



「イカひこうきにしたい！」
「それじゃなくて、
よく飛ぶのがいいよ！」
「…じゃあ、どうする？」

■【みんなで】みんなで折り上げてみよう！



「おんなじ形に
ならない…」
「ちょっとオレに
貸してみな！」

《保育者の 〇願い・思い 〇配慮事項》

〇それぞれの思いを紙ひこうきの形にし、作り上げる喜びを味わってほしい。

〇自分の思いや考えを友だちに伝えられるようになってほしい。

◎一人ひとりが工夫した点、かっこいい点などが伝え合えるよう働きかける。

◎保育者自身も、一人ひとりの工夫や素敵な点に心が動かされたことを言葉にし、伝える。

〇友だちとアイデアを出し合い、友だちの意見も取り入れながら作っていきけるようになってほしい。

◎なかなか意見を言い出せない子どもには、保育者が仲立ちをし、代弁したりしながら援助を行う。

◎一人ひとりの思いや考え、良さをつなげ、それぞれのアイデアが形となるよう援助を行う。

〇友だちと試行錯誤しながら折り上げ、自分たちだけで作り上げる達成感を味わってほしい。

〇共に完成を喜び、「自分たちだけでできた！」という自信につなげていきたい。

◎友だちと協力して最後まで作り上げられるよう、試行錯誤の時にはじっと待ってみたり、その時々思いを代弁したり、だいじょうぶ、だいじょうぶと、前向きに取り組めるよう働きかける。

学びの芽生え、10の姿につながるポイント

① 自分の思いや考えを言葉にして伝える（9 言葉による伝え合い）

言葉にして伝えることは、まず自分自身が何を思い・考えるのかということが明確になります。また、友だちの思いや考えに触れる経験は、自分と他者との共通点や相違点などに気づき、その面白さを味わう姿、相手の意見を尊重する姿へとつながっていきます。その際、子どもたちに任せるだけではなく、まずは「伝えたい」と思える印象深い経験を保障したり、伝える言葉の表現者としてのモデルとなったり、聞くことの面白さや有益さを伝えたりなどの保育者の配慮や援助は、欠かすことができないものでしょう。

② 試行錯誤の経験を保障する（6 思考力の芽生え）

日々の生活の中では、「やりたい、でもできない」という場面や、他者と意見がすれ違う場面、思いが伝わりにくいことなど、ままならないことも多々起きます。こうした困難に直面し、自分たちの力でどう乗り越えていくか、と子どもたち自身のもつ力を総動員し、考え・試行錯誤する経験は、生きる力の基礎となります。

《教材等の工夫》

■だいじょうぶ、だいじょうぶ。「一緒にやろう！」

・グループにそれぞれ担当の保育者を配置することで、子どもたちの思いや考えに共感し、躓いた時にはフォローに入れるようにすることは支えとなり、諦めそうになっている子どもも、友だちと一緒に粘り強く作り上げる姿があった。

・自分で出来ない事に対して落ち込んでいる子に対し、子ども同士で「こうしてみよう！」「一緒にやろう！」という声掛けを子どもたち同士で行う雰囲気次第に作られてきた。友だちに言ってもらったことで顔を上げ、前向きに「やってみよう」という気持ちになった。



作れなくて落ち込む子に寄り添い声を掛ける

■みんなのねがい「飛べ！遠くまで！！」

・紙ひこうきを飛ばす前には、完成した紙ひこうきのチェックをしたり、飛ばす練習をしたり「こうやってやって」「上の方に飛ばした方が遠くにいくよ」など子ども同士で伝え合っていた。

・舞台から競争する場を作った。誰が飛ばすのか、どうやって決めるのか、見守ることにした。じゃんけんのグループもあれば、やりたい子が飛ばす、というグループも。

・「チームが優勝できるように、応援も大事だね」など、さまざまな役割にも大きな意味があることを伝え、大きな声で応援する姿も。羽ばたく「自分たちの紙ひこうき」を見つめる時の子どもたちは、力のみなぎる満足感いっぱいの表情だった。



「せーの！」

ステージの上から一斉に紙ひこうきを飛ばす様子

保育者の気づき、その後の子どもの育ち

様々な経験や体験を通して、友だちの力を得ながら粘り強く取り組もうとする姿が見られるようになりました。友だちがいるからこそアイデアが豊かに広がったり、力を合わせることで遊びがよりおもしろくなったりする経験から、「友だちっていいな」の気持ちが膨らんでいきました。

小学校教育との円滑な接続

配られた画用紙を一人ひとりが折って、紙ひこうきを作る過程で、「ぴったり折って」等長を感じたり、対称に翼を広げていたり、小学校での図形の学習へとつながります。小学校では構成要素に着目できるよう、丸シールを使うことがあります。子ども自身の手や感覚を用いて、試行錯誤をしながら図形の特徴を捉え、形の構成を学びます。

本事例とつながりが深い「10の姿」

6 思考力の芽生え

9 言葉による伝え合い

小学校教育活動との関連

1年 算数科
「かたちづくり」等